

みどりの風

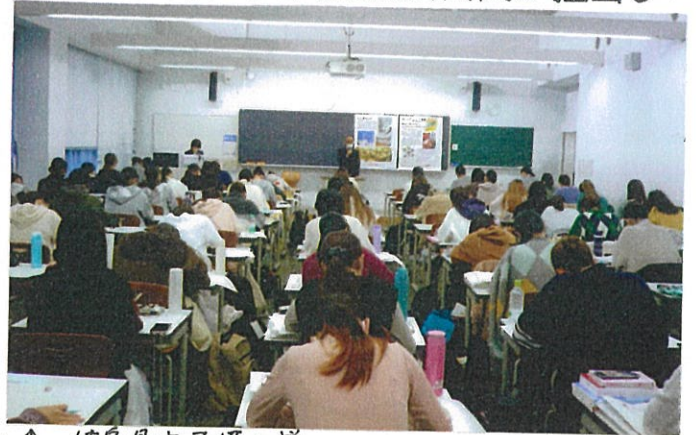
「ありがとう」は 脳に良い最高の言葉

NO.33

発行・編集責任 (緑風会会長 大矢正明)

今年も大学で透析授業

11月13, 14日 東海学院大学 21日岐阜県立看護大学で
10年前から毎年恒例になっている大学での透析授業が今年も行なわれ、13日は東海学院大学の管理栄養士科3年生35名に、14日は臨床検査技師35名に対して、また21日には岐阜県立看護大学1年生80名を前に大矢緑風会会長が担当しました。



↑ 岐阜県立看護大学



講義は、「透析導入までの生活状況」「透析生活の実態—透析日の過ごし方、日常生活での調整、食生活、合併症、楽しみや生きがい、患者会の活動」「現在どのような医療制度、福祉制度で透析療法を続けているか」「看護師、検査技師、管理栄養士に期待する事」等を約60~90分語りました。

みどり余話

透析と生命予後

東海学院大学

生命予後って何かわかりますか？医療者の間では当たり前の用語でも、患者にとっては難しいですね。少し説明させていただくと、病気やケガがどれくらい命に影響するかということ。「生命予後が良い」と言った場合は、「長生きができそうだ」という意味だそうです。透析の血流量や血液検査でわかるKt/vできれいにしてできる体液の割合(透析量)が一定の場合は、透析の時間が長い方がおおむね生命予後が良い=長生きができる、と言っているのだそうです。つまり3時間半より4時間、4時間より4時間半、4時間半より4時間半以上、つまり透析の時間を伸ばすほど、長生きができるということです。これは統計的な事実です。言われてみれば当たり前の話ですよね。腎臓が元気であれば、不要な水や毒素をこまめに排出できるのに、腎臓が働いていない私たち透析患者は、透析をしている時間しか、水分や毒素の除去ができません。透析の時間を伸ばすことで、健康な腎臓の働きに近づけるのです。私(大矢)が5時間透析を続けているのも理解していただけたらと思います。長生きして、これからも末永くスタッフさんと共にしたいのです。スタッフのみなさん、よろしくお願いします。